

中学部Cグループ

1 研究テーマ

生徒が適切なかかわり方を身につけ、日常生活で活かすための授業づくり
～チェックシートの活用を通して～

2 テーマ設定の理由

本グループは、中学部の通常の学級に在籍する生徒20名で構成される。音声言語でやりとりができる生徒、教師に促されれば自分の思いを伝えることができる生徒、身振り等を用いて伝えようとする生徒など、実態は様々である。それぞれの生徒は教師や友達とかかわりたい気持ちはあるが、適切ではないかかわりをしてしまったり、上手く伝えることができなかつたりといった様子が見られる。また、人前で話すことに自信がなく声が小さくなったり、話す時の発音が不明瞭なために言いたいことが相手に伝わらなかつたりすることも多い。昨年度の成果として、他者との接し方を学ぶ学習を通して自分の行動を客観的に振り返ったり、友達の考えや行動を受け入れやすくなったりするなどの変容がみられた。課題としては、これまで学んできたことを日常生活に般化していけるよう、生徒のかかわり方の課題について共通理解を図る必要がある点が挙げられた。今年度は、複数の生徒を対象として、適切なかかわり方の日常生活への般化を図っていきたいと考える。そこで、KJ法を用いて複数の教師の視点から生徒の実態把握をし、生徒のかかわり方についての課題を把握していく。また、コミュニケーションや社会性に関するチェックシートを作成し、家庭や事業所と連携して、生徒の課題や変容について共通理解を図ることで、適切なかかわり方についての課題を焦点化した授業づくりについて検証し、学習の成果を日常生活に活かしていくことができるよう、本テーマを設定した。

3 研究仮説

KJ法やチェックシートで生徒のかかわり方の課題についての実態を把握し、適切なかかわり方を身につけるための学習内容を検討し実践していくことで、生徒のコミュニケーション力を向上させることができるのではないかと考える。また、チェックシートで家庭や事業所での生徒の変容を確認し、学習活動にフィードバックさせることで、生徒が適切なかかわり方を日常生活に般化させていくことが可能であろう。

4 研究推進方法及び研究計画

(1) 研究推進の方法

①KJ法による実態把握

対象生徒を4名とし、生徒のかかわり方についての課題等をグループ内の教師の視点で整理・焦点化する。

②チェックシートの活用

コミュニケーションや社会性に関するチェックシートを作成し、家庭や事業所と連携して生徒の課題や変容について共通理解を図る。

③国語における研究授業の実施

④学部全体の授業における検証授業の実施

(2) 研究計画

5月 テーマ設定・研究計画の検討、作成

6月 KJ法を用いた生徒の実態把握 チェックシートの様式検討

- 7月 中間協議会の準備
- 9月 授業研究の指導案の検討
- 10月 授業研究（10／3 第2回校内研究会）
事後研究会、グループ検討会
- 11月 検証授業の実施、研究のまとめ
- 12月 研究のまとめ
 - 1月 校内研修全体協議会に向けた準備
 - 2月 校内研修全体協議会